

介護老人保健施設 しおさい

症 例 概 要 ご利用者：A様 90代 女性

病 名：フレイルサルコペニア、腰椎すべり症、脊柱管狭窄症、認知症

利用サービス：長期入所

経 過：自宅での転倒をきっかけに体動困難となり、フレイル・サルコペニアの影響でADLが低下した状態で入所されたご利用者。認知機能低下や失見当識があり、入所当初は発語がほとんどなく意思表示が困難であったが、関わりを重ねる中で「行きたい」という思いが引き出され、多職種連携のもと外出支援や歩行への取り組みを実施したことで、笑顔や発語の増加など変化が見られた症例。

内 容

自宅での転倒をきっかけに体動困難となり、フレイル・サルコペニアの影響によりADLが低下した状態で入所されました。認知機能の低下や失見当識も見られ、入所当初は発語がほとんどなく、「あ」といった単音のみで意思表示も難しい状況でした。

日々の関わりの中で、声掛けを増やし、ゆっくりと時間をかけて向き合い、徐々に会話が増えていきました。関わりの中で取り組んでいる共有ノートを通して生活歴をたどると、「以前、近くの銀水荘で料理をしていた」とのお話を聞くことができました。その際に見せてくださった笑顔はとても印象的で、それまでとは違う、その方らしいいきいきとした表情でした。さらに、「銀水荘に行きたい」という言葉を聞くことが出来ました。それは、私たちにとって初めてご本人の思いがはっきりと感じられた瞬間でもあり、この思いに応えたいと強く感じた出来事でした。入所後は車椅子での生活が中心で、立位や歩行は難しい状態でしたが、その思いに応えたいという気持ちから、多職種で目標を共有し、関わりを開始しました。立つこと、足を出すことを一つひとつ積み重ねる中で、はじめは難しかった立位も徐々に安定し、ついには一歩を踏み出すことができました。その瞬間、ご本人の表情にふっと笑顔が広がり、その場にいたスタッフも思わず顔を見合わせ、喜びを分かち合いました。その後、身体への負担に配慮しながら、思い出の銀水荘が見える場所まで外出する機会を設けました。車椅子で近くまで移動し、職員の支えのもとではありますが、二歩をご自身の足で歩くことができました。「できた」と喜ばれる姿は、入所当初の様子からは想像できないほど、その人らしさがあふれる瞬間でした。

この様子を写真とともにご家族へお伝えしたところ、「なかなか遠方で行くことができない中、このような機会をいただき感謝しています。入所できて良かったです」とのお言葉をいただきました。離れて暮らす中での不安が、安心へと変わった瞬間であったと感じています。現在も面会時には外出し、大好きな甘いものを召し上がる時間をご家族と過ごされています。また、入所当初はほとんど聞かれなかった言葉も、今ではスタッフに自ら話しかけてくださる場面が増え、関わりの中で笑顔や表情も多く見られるように

なりました。

「あ」としか言葉にできなかった方が、「できた」と笑顔で話されるようになった変化は、私たちにとっても大きな喜びであり、その方の中にある力を改めて感じる出来事でした。

本症例を通して、その方のこれまでの人生や思いに丁寧に寄り添うことで、再びその人らしさやキラキラとした笑顔が引き出された症例です。

- ・看護：状態観察と情報共有を行いながら、安心できる声掛けを実施し、信頼関係を構築
- ・介護：日常生活に寄り添いながら声掛けを重ね、発語や笑顔を引き出す関わりを実施
- ・リハビリ：「歩きたい」という思いに寄り添い、立位・歩行練習を段階的に実施し、成功体験を支援
- ・栄養課：体調に配慮した栄養管理を行うとともに、嗜好に合わせた食事提供で楽しみのある生活を支援
- ・相談員：外出支援を共同で実施し、安全に配慮しながら「行きたい」という思いを実現
- ・アロマセラピスト：触れるケアを通じて安心感を提供。